

第31回通常総会と京都例会

青年会議所保険部会

「原点復帰と環境適応」

2010年度の青年会議所保険部会(松本一成部会長)の第31回通常総会と京都例会が1月23日午後2時から、東山区の京都祇園ホテルで、全国から約20名が集まり開催された。今総会では、名称変更に関する審議が行われ、保険部会として日本青年会議所の支援団体として申請書を提出することなどが決議された。

開会宣言とJ
C宣言文朗読・
綱領唱和の後、
松本部会長が挨拶に立ち、「混

も一つの企業体としてRMを考えなければならぬ。そのためには、激変する業界のなかでブレない軸を構築する必要がある。保険部会もメンバーが減少傾向にあるが、ここで若手が元気をなくすことなく、本来あるべき姿を追求しなければならぬ。部会長として元気のこの活動をしたい」と挨拶した。

続いて塚本徳明直前部会長が登壇し、昨今の業界情勢を説明しながら、「競争が熾烈化する中で様々なき業界で起きているが、それは消費者不在のところで起きている。そうしたことはあくまでも外部要因であってお客様にしっかりしたものを提案していくという主軸をブレさせない限り、我々に影響はない。お客様不在ではなくフェ



挨拶する松本 一成部会長

イストウフェイスで代理店は活動していく必要がある」と述べた。

続いて6号議案までのすべての議案を審議し全議案を可決承認した。その中では、名称変更の件が審議された。名称については、昨年の臨時総会から、日本青年会議所保険部会ではなく青年会議所保険部会と名称を変更しているが、今年度から、日本青年会議所の支援団体として承認された部会については日本青年会議所という名称やJCマークが使えるようになることから、支援団体届出書を提出することの可否を審議、満場一致で支援団体としての申請書を提出して承認を得て、名称を

旧に戻すことを可決承認した。

通常総会の後、京都例会のオープンセミナーに移り、保険代理店協議会理事長の堀井計氏(株)ホロスプランニング代表取締役)が「保険業界の未来と生き残りの条件」というテーマで講演を行った。堀井氏は、業界が縮小する傾向にあることを代理店減少の推移や、人口動態データなどの様々なデータを駆使して解説したが、「決して暗くなる必要はなく明るく前向きに取り組まなければならない」と述べる中で、「ただし、ベンチャースピリッツのある人でないと生き残っていくことは難しい」とし、さらに、生保販売の仕組み(マーケティング)を細かに説明する中で、今後ますます出会いや、コミュニケーションスキルが大切になってくると話した。また、同協議会の活動内容や同社の業務内容、さらに先ごろ開発したCSB(顧客情報活用システム)についても説明した。

池とした閉塞感の強い業界だが、こんな時代だからこそ本物が生き残る時代。業界全体を見据えて業界に元気が与えられるような活動をしていきたい」とし、自分の活動を保険部会の活動と連動させながら、「私は原点復帰と環境適応というテーマを掲げた。いかに原点を忘れずにあるべき姿を追求していくか。RMを中心にした活動を私は展開してきたが、原点から乖離すればするほどリスクは大きくなる。また環境の変化が激しいが、環境変化の実態から乖離すればするほどリスクは大きくなる。保険代理店はお客様だけでなく、自ら

追いかけていくか。RMを中心にした活動を私は展開してきたが、原点から乖離すればするほどリスクは大きくなる。また環境の変化が激しいが、環境変化の実態から乖離すればするほどリスクは大きくなる。保険代理店はお客様だけでなく、自ら

追いかけていくか。RMを中心にした活動を私は展開してきたが、原点から乖離すればするほどリスクは大きくなる。また環境の変化が激しいが、環境変化の実態から乖離すればするほどリスクは大きくなる。保険代理店はお客様だけでなく、自ら